

[学会報告]

外国人が安心して日本で働くためにモバイルができること

高岡 詠子¹⁾

1) 上智大学理工学部情報理工学科

要 旨

目的

2015年より、外国にルーツのある患者が安心して日本の医療機関を受診するための研究を行ってきたが、オリンピック・パラリンピックの年になっても未だに、外国人が日本の医療機関を受診する場合の言葉の壁は大きい問題である。さらに外国人が日本で働く上では、日本と自国の教育に違いがあり指導が必要である。しかし、言葉の壁により詳細な説明が伝わらない、多忙で個別に指導する時間がないなどの問題が生じている。地方によっては方言が強く、外国人労働者を悩ませている。本研究ではこの問題を解決するために、日本で暮らす外国人材が安心して健康に働くために、モバイルができることを探る。

方法

2015年から「多言語対応医療情報提供システム」の開発と運用を行ってきた。患者が医療機関を受診する時に通るであろう各部署で想定される会話をiPad等のモバイル機器を使って多言語で実現するアプリである。いくつかの医療機関で実証実験を行った。また、2020年からは医療機関だけでなく外国にルーツのある個人、または訪日外国人と在留外国人の「はざま」に陥っている人々を支援する団体に対しても何かできないかと思い情報発信したりアプリケーションの開発を行った。

結果

2015年からのアプリ実証実験を行った一つの医療機関では、もっとも使用頻度が多かったのは放射線科のX線検査であった。現在、英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語、ネパール語、タイ語、タガログ語、インドネシア語に対応した「多言語問診票」「多言語同意書・説明書」「多言語検査支援」アプリを開発し公開した。前述の医療機関では引き続き放射線科での使用を継続している。さらに自国の言語で診療ができる医療機関を探すことのできるアプリを開発した。

結論

モバイルヘルスのニーズが高まる中、外国人が安心して日本で働くことができるためのモバイルアプリを構築し評価しつつ運用を続けていることを報告した。また、モバイル機器でのアクセス率、情報を必要としている外国人は多くいることを数値で示すことができた。今後も外国人に安心・安全な労働環境が提供されるよう研究を続けたい。

キーワード：多言語対応、外国人患者、外国人労働者、モバイルヘルス